

(故)松尾治の山と写真 ふたごの弟を悼む

双子の弟・松尾治が2022年12月30日未明に亡くなった。覚悟していたこととは言え、やはりショックは大きく、私は茫然となった。

終戦後の食糧難と飢え

私たちは1941年旧満州で生まれた。5歳の時一家で帰国。引き揚げ時の両親の苦労は大変だったと思われるが、私たちは断片的にしか記憶がない。

むしろ今でも思い出すのは戦後の食糧難だ。みんな貧しく飢えていた。一時は栄養失調からか身体中に「できもの」が噴き出したりした。

そんな中でも両親は行商で私たち6人を育ててくれた。両親にはいく **↑ 作品名「シュカブラ(雪紋)の彼方」金峰山**から感謝してもしきれないと思う。私はまた、頑健だった弟に支えられる事が多かった。



共に高校時代から山登りに親しむ

同じ高校に進学、私は地学部で、弟は生物部で山に親しむようになる。

さらに、治は大学でワンゲル部を創設、そのリーダーとして全国の山々を登っている。

ライフワーク「山々からの富士」

治は、大手電機メーカーで課長、部長などを歴任しながらもテントとカメラを持って、八ヶ岳、南アルプス等の高峰から



↑ 作品名「霧氷」三つ峠山で 富士山を撮り続け、「山々からの富士山」撮影をライフワークとしてきた。

20年間発行してきた富士カレンダー

2000年代に入り、活動の集大成とも言うべき「個展(写真展)」を東京や長崎で開催、また「富士の四季」カレンダーは2004年から2023年度まで20年間にわたって発行され続けている。

数多くの作品から珠玉の12枚を選んだフォトハガキセット「山々からの富士山」、写真集「富士の四季」なども好評を得ている。

私の「遭難」時、駆け付けてくれた治

恥ずかしい話だが、2004年6月新潟県の巻機(まきはた)山で私は道を間違えてしまい、野宿2泊の「遭難事故」を起こしたことがあった。

この時、現地の十日町に駆け付け、捜索隊に付き合い、事後処理をしてくれたのが、弟・治だった。地元旅館で捜索隊員全員の食事



会(慰労会)を段取りしてくれたのも弟だったし、地元消防署、警察署へのあいさつ回りにも付き合ってくれた。

もし、逆の立場だったら、私は治のように出来なかつただろう。改めて有難うと言いたい。

兄弟登山でも、しんどい役割を

私たち兄弟姉妹は、それぞれなりに山歩きを楽しんできた。そして何回か「兄弟姉妹登山」に出かけた。場所は九重山だったり、北アルプスだったりしたが、その際車の運転を引き受け、食糧などを運んでくれたのも、弟だった。



↑ 2010年3月新潟県の弥彦神社で(左から妹、私、治、長姉、長姉の長女、末弟)

続・続・二上山に咲く花々 4 1

ヒサカキ(姫榊) 写真は故澤木仁さん モッコク科ヒサカキ属

奈良県ではビシャコと呼ばれて、なじみの深い常緑小高木。雌雄異株で花期は4月ごろ。写真のようにつぼ型の小さな花をたくさん下向きに着けます。

異臭がありますが、光沢のある硬質の葉は、お墓や仏壇のお供えとして愛用されます。

秋には実をならせ、冬にかけて黒紫色に色づき、小鳥たちの大切な冬の食糧。

名は「小さい榊」の意で「ひめさかき」からの転訛とされています。



続・続・二上山に咲く花々 4 2

ミヤマキケマン(深山黄華鬘) ケシ科キケマン属

名に「深山」がつきますが、低山、低地に普通に咲いています。海岸などに自生する「キケマン」と区別するための名とも言われます。二上山でも、川沿いの道の傍らに固まって咲いています。

4月～7月、茎の先に3～10 cmの総状花序をつけ、2センチあまりの花をたくさん咲かせます。

けまん(華鬘)は、仏堂の装厳具とされていますが、この花のどの部分が当てはまるのかは解りません。

この仲間は有毒植物ですから、口に入れたりほしないように。同科、同属のムラサキケマンも二上山ではおなじみの花。